



なきごえ



1992

6

New Face



(撮影：森本 委利)

もくじ

- 2 — New Face エミューのヒナ
- 3 — 動物と私 サギたちとの出会い
カバーウォッチング ビクトリアコアラ
- 4 — リヤカーマン、アフリカを歩く
- 6 — コアラの子育て
- 8 — グラフZOO コアラ誕生
- 10 — 動物なんでも相談室
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

ビクトリアコアラ
フクロネズミ目 コアラ科

Phascolarctos cinereus victor
かわいいぬいぐるみのような姿で人気のコアラも、その生活はともきびしいものです。今号では、動物園での生活の一部を紹介しています。

(撮影：早川 篤)

||||| 動物と私 |||||

サギたちとの出会い

どうも私はサギにこだわる。もちろん詐欺ではなく、シラサギに代表される鷺の仲間のことです。

理由は単純、学生時代に最初に研究したのがサギだったからです。大阪市立大学で卒業研究を始めようというときには、こずえでさえずるかわいい小鳥を研究したいと、正直なところ思っていました。小鳥の研究を指導教官であった山岸先生と検討したこともありましたが、しかし、コサギの研究で修士論文を書いた先輩の話がおもしろく、「私も続け」と気が変わったのがサギとおつきあいの始まりです。

サギはいくつかの種類がコロニーまたはサギ山と呼ばれる林に集まって巣をかけます。卒業研究の調査地は、三重県の池の中にある小さな島でした。廃材とぼろ布で組み立てた隠れ小屋からは、私が研究対象としたアマサギをはじめ、5種類のサギたちが巣を構え、子を育てている姿が間近に見えました。私は体が硬くなるほどの興奮を毎日のおぼえました。

しかし、研究は楽ではありませんでした。夜明け前の薄暗いうちにサギの巣に登って卵を数えた



藤岡 正博 さん

(農林水産省農業研究センター・研究員)

り、雛の体重を測ったりします。木には巣からこぼれたザリガニや小魚といった餌やらサギのふんやらがこびりついており、モーレツにくさい上にぬるぬるしています。滑って落ちても助けてくれる人はいません。巣登りを終わって隠れ小屋に入るときには、周辺のサギたちは驚いて巣から飛び去り、10分ほどしてみんな戻るまでは一服できます。しかし、初めの頃はみんな戻ってくるかどうか気になって結局小窓からじっと外をうかがっていました。日が暮れて観察を終えて帰るところは、同じ島の中の暗いテントです。私は「原始人」と呼ばれていました。

苦 労が報われるともかぎりません。アマサギが隠れ小屋の回りに巣を構えなくて、小屋を移動させるはめになったり、個体を1羽1羽区別するのが予想以上に難しかったりと、トラブルが続きました。アマサギだと思って調べていた巣が、雛がかえってみるとコサギだった、などということもザラでした。

卒業研究のあと、修士論文と博士論文もサギをネタに書かせてもらうことになりました。繁殖行動の観察だけでなく、近畿・北陸でコロニーを探して回ったり、たんぼや川などでコサギの採食行動を観察したりもしました。思った通りやれたことはほんの一部しかありませんが、さいわい成果がそれなりに評価される機会が時々あったのがやっぱり励みだったような気がします。

サギとはあまり縁のないところに就職したので、サギたちとはもうお別れかなとかば観念していました。しかし、繁殖期にサギが身にまとう美しい飾り羽のなぞを私と一っしょに探りたいという人があらわれ、どうやらまたおつき合いできそうです。今は天王寺動物園の“鳥の楽園パードケージ”で巣を構えるコサギたちとも仲良くできないかと、ない頭をひねっているところです。

エミューのヒナ ヒクイドドリ目 エミュー科

このエミューは人工ふ化で3月14日に生まれました。ヒナは親とは異なりしま模様があります。すっかり大きくなったヒナはカバ舎横の走鳥舎で元気に走り回っています。



リヤカーマン、アフリカを歩く

永瀬忠志〔冒険家〕

いつごろからだろうか……。子供のころ、本やテレビでアフリカの動物や自然を見ながら、いつかアフリカへ行くんだと思っていました。ただ、そう思うだけで、まさかリヤカーを引いて歩くとは思っていませんでした。



1989年6月8日、アフリカ大陸の東海岸ケニアのモンバサを、リヤカー「田吾作3号」を引いて出発しました。歩いて赤道地帯を横断し、サハラ砂漠を縦断しようという計画でした。目的地は、フランスのパリ。その距離、約11,100km。リヤカーを引くのは、砂漠に必要な多くの水や食料を運ぶため、テントや毛布、鍋などが満載してありました。

ケニアからウガンダにかけては、サバナ地帯です。モンバサから240kmくらい歩いた時に、草原に長い首のような物が見えました。いた！キリンです。リヤカーを止めました。100mばかり離れています。首を動かして木に寄りかかるようにしました。きっと木の葉を食べているのでしょう。そのうち、キリンも私に気づいたようです。こっちを見ました。私に興味を持ったようで、こっちへ向かって歩き出しました。

10歩くらいで立ち止まり、直立不動で私を見ている。まるで電信柱のようです。緊張した静かならみ合いが続きます。時たま、しっぽを振っています。機嫌はいいのでしょうか。私は、とても幸せな気分です。

30分が過ぎたころ、遠くから列車の走る音が聞こえてきました。しばらくして、キリンが音の方向へ顔を向けました。すぐに私の方を見ました。また音の方を見ました。どうも、その音が気になるようです。やがて、ゆっくり音と反対方向へ歩き出しました。長い足で、あれよあれよと思う間にどンドン歩き、権木の陰

へ隠れてしまいました。「あーあ、行っちゃった……」ちょっと寂しい気分になり、私も歩き出しました。

高いビルが建ち並ぶ首都ナイロビを通過し、シマウマの群れを見ながら、ウガンダへ入国しました。ウガンダには3つの国立公園があります。その1つ、西部のクイーン・エリザベス国立公園へ差しかかりました。

舗装道路を歩いて行くと、やがてカトゥングル村がありました。ここからザイルへ行くには、舗装道路を通ってメインロードに行く方法と、細い道を通ってムウェヤ・サファリロッジへ寄って行く方法がありました。村人が心配そうに話します。

「メインロードを行けば、よく自動車を通り、動物も少ない。細い道を行けば、動物が多くて、ほとんど自動車も通らない。しかし、歩くのは危険だから、メインロードを行った方がいい。」

しかし、せっかくここまで来て、今度いつウガンダへ来れるかもわからないのに、やっぱり細い道を歩いてみたい。少し迷いましたが、20キロ先にサファリロッジがあるので、細い道に行くことにしました。

草原が広がります。不安で、振り向いては村を見ましたが、そのうち見えなくなりました。先へ進みます。不安だけど、何かワクワクしてきます。インパラが何頭もいます。私を見ては、ピョンピョンと飛び跳ねて逃げて行きます。イボイノシシの親子がいました。子供は2頭います。短い足をバタつかせて走っています。

ふと、100mくらい前方にアフリカスイギュウ（バッファロー）がいるのを見つけました。道からは10mくらい横で、木の葉を食べています。いやに大きく見えます。ちょっとためらいましたが、おそろおそろ近づいて行きました。

アフリカスイギュウから目を離さずに近づきます。まだ私に気づいていません。すぐ横まで行くと、木の陰で見えなくなりました。10m横をそっと先へ行き、再び木陰から姿が見えた時、アフリカスイギュウは私に気づき、頭をこちらへ向けました。

とっさに目をそむけ、前を見て、足早に歩きました。もし足音が聞こえてきたら走ろうと思い、全神経を後ろへ集中させます。100mくらい離れたら、やや落ち着いてきて、私は後ろを振り向き、どうやら来る気配はありません。先を急ぎました。ドキドキしてきます。動物園で見たライオンの姿が頭に浮かんできます。

カトゥングル村から約5km先に、ポツンと家がありました。人が4人いました。ここは国立公園のゲートのようです。私が歩いて来たのを見て係官が驚いています。「日本人は、とても冒険的だ。」と英語で言いました。入場料2000ウガンダシリング（約1400円）を払い、通してもらいました。

遠くから動物の鳴き声が聞こえてきます。すぐ近くをカジンガ水路が流れており、対岸に象がいました。ゾウの声です。よく見えませんが、30頭

くらいいそうです。今度は、「ガブブー」とパイプが詰まったような鳴き声が聞こえてきました。何だろうと思っていると、水辺にカバの群れがいる



クイーン・エリザベス国立公園のカバ(ウガンダ)

のを見つけました。それにしても、動物が昔のままに生息している素晴らしい自然界です。この自然界が永遠に続いてほしい、人間の私利私欲で侵してほしくないと思いました。

国立公園を抜けてザイルへ入国すると、すぐに熱帯雨林地帯に変わりました。

よくサルを見かけます。高い木の上で上手に枝を伝って移動していたり、突然、道を横切ったり……。一晩、泊まったベンゲという村には、チン



ベンゲで飼われていたチンパンジー(ザイル)

パンジーが1頭いました。オスで「アドニー」と名前がつけられ、村人に可愛いられていました。村人と言葉が通じなくて、どうして森にいたチンパンジーが村で飼われるようになったのか、詳しいことはわかりませんでした。また、水をもらいに立ち寄った家では、少年がサルの赤ちゃんを育てていました。「このサルを持って行かないか。」と少年が私に差し出しました。でも、途中で死んでしまいそうで、もらいませんでした。

サバナ、熱帯雨林と赤道地帯を横断し、西海岸カメルーンのドアラへ着きました。ここから北上し、サハラ砂漠縦断に向かいました。

私が歩いて初めて旅をしたのは、19歳の時、日本縦断3200kmでした。22歳の時、リヤカー「田吾作」を引いてオーストラリア大陸徒歩横断4200km。そして、26歳の時、「田吾作2号」を引き、モンバサを歩き出しました。ところが、6700km歩いたナイジェリアのカノでリヤカーごと荷物を盗まれてしまい、そこで旅を終えて帰国しました。33歳になった今回、「田吾作3号」を引いてモンバサの第一歩からやり直しの旅を始めました。



サハラ砂漠のラクダに出会う(ニジェール)

ノを過ぎ、砂漠地帯へ入ると、ラクダがいました。地面の草を食べたり、のんびりと歩いたりしています。ラクダに荷物を積んで移動している人とも出会います。北上するにつれて、しだいに草は減り、そのうち植物はなくなってラクダもいなくなり、不毛の砂漠になりました。

砂が柔らかくなると、リヤカーの車輪がはまり込んで動いてくれません。長さ180cmの板を敷いて前へ引きます。1回、引いたら、また板を前へ置く。それを繰り返します。「俺は、こんな所で何をしているのだろう……」自分が何をしているのか訳がわからなくなります。動かないリヤカーを前へ動かすことが何だろう。目的地を目ざして歩くことが何だろう。どんな意味があるのだろう……。立ち尽くして考えていても、ますますわからなくなります。わかることといえば、このまま立ち止まっていたは何も動かない。何の問題も解決しないということだけです。動いて行くしかないとの答えしか出ず、また板を敷いてリヤカーを前へ動かします。

夕方になり、太陽が地平線へ沈みそうになると、そこで1日を終えてテントを張ります。米を炊き、缶詰などをおかずにして食べます。夕食を食べていると、どこから来たのか、砂色をした小さなネズミが近づいたり離れたりして周囲をウロウロしています。体長10cmほどの砂色のトカゲが近くへ来ることもありました。「ヨオッ！」と声をかけます。砂漠で出会った友達です。心がなごみます。何を食べて生きているのか、たくましい生命力には驚きます。そういえば、草がわずかにある所で、砂色のトンボが飛んでいるのを見ました。こんな砂漠でトンボを見るなんて、信じられない思いがしました。

北へ北へと歩き、サハラ砂漠を縦断して地中海沿岸アルジェリアのアルジェへ着きました。船でフランスへ渡り、パリへ着いたのは1990年6月18日。376日目でした。これからは、アフリカを歩いたことを思い出すたびに、動物園の動物に会いに行きたくなりそうです。

コアラの子育て

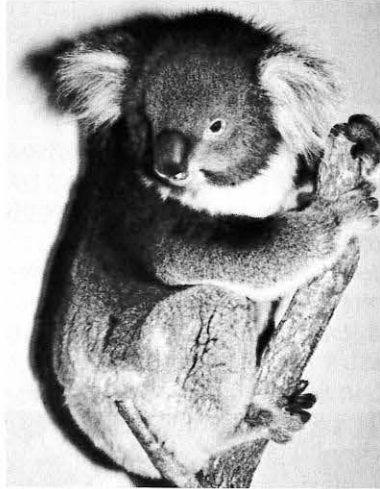
浪速っ子コアラの赤ちゃん誕生という大阪らしいコピーのポスターができました。当園で初めて生まれたコアラの赤ちゃんのポスターです。少し細めの顔で、親と比べるとあんまり可愛くないというのが私の素直な感想です。でも、ユーカリを食べる時になかなかうまく口の所に持ってこれずに頑張っている時や疲れて眠っている姿は結構かわいいものですよ。とはいえ親同様に子供も寝ている時が多く、皆様にその姿を見ていただく機会はあまりありません。今日はせめて動物園で観察した赤ちゃんが生まれてくるまでの事や子育ての様子を書いてみます。

父親の名はハク。私が彼と初めて会ったのは、コアラの受け入れ準備のためメルボルン動物園を訪れた時でした。当時1才4ヶ月だったハクは体も小さくまだあどけない顔をしていました。その一年後、来日した時にはすっかり大人の顔になっていました。よく人でも親戚の子が、しばらく会わないうちに目に見えるのと同じ感じです。

若い頃のオスは体のバランスがメスとよく似ていますが、大きくなると頭が大きくなりいかにもオッサンという感じになります。

ハクはのんびりとした性格です。しかし、頑固なところもあり、気に入らない時はテコでも動かない

母はミドリ。メルボルンの飼育担当者が、一番よく慣れた優しい性格だよと言った通りのコアラです。まあ性格は良いのですが、目つきが悪い。ミドリにとっては大きなお世話とわれそうですが…。コアラの眼は他の有袋類の仲間同様に赤色です。しかしミドリは目が大きいのか白い部分が少し見えています。だから、なんとなく人間



目付きの悪い(?)ミドリ

の目つきのように、しかも顔を下に向けながら人を見るくせがあり、見つめられると何か困っているみたいですね。でも本当に良い子です。

子供が生まれるためには、交尾が必要

です。日本の動物園でも数多くの出産例がありますが、2、8月を除いて年中出産がみられます。

では、いつでも交尾が可能かというところではありません。やはりメスの発情が十分でないとならば成りません。当園では、メスが木から降り地面を歩きまわるとなると、食欲が落ちたり、起きている時間が長いなどの行動を総合的に見て発情だと判断しています。メスの行動に合わせてオスは胸の臭腺の匂いが強くなったり、よく鳴くようになります。

メスの発情は数日間続きます。そして発情がピークに達した時にオスに交尾を許します。

野生では単独行動をしているコアラは、お互いの鳴き声やにおいで交尾適期を知るのでしょうか。飼育下では、扉で仕切られているため飼育係が同居させる時を判断しなければなりません。

コアラの交尾行動は、咬みついたり鋭いツメで引っかいたり攻撃的で荒々しいものです。逃げ場が十分にあれば良いのですが、限られたスペースしかない場合は、同居時期を間違えると、メスはオスを拒むため闘争になり、大ケガをする可能性があります。

6月22日、ミドリは3日前から発情が始まりました。ハクの鳴く声に、耳をパタパタさせ全身をビクビクさせ、何度も木を登り降りします。発情のピークに達したと判断し2頭の部屋の扉を開け外から観察を続けることにしました。

どうなるのだろうか？私達の心配をよそに19時

33分と20時26分、2回の交尾をしました。

出産は、母にとっても子にとっても命がけの大変なことです。男の私には想像を越えた世界です。ご存じのように有袋類は一般的な哺乳類に比べると胎児を未熟な段階で出産し、引き続き袋の中で育てます。

交尾から34日目の7月26日、午後1時からいつもと少し違う姿勢で座り始めました。2時50分には頭を腹部にもっていき前かがみの姿勢になり、時折クゥーと小さな声をあげていましたが、3時10分には通常の姿勢に戻りました。

私達も初めてだったので、変に刺激を与えてはいけなと考へ、部屋に入らず、監視カメラでの観察だったので詳しく見れなかったのですが、この30分間に出産されたように思えます。

子供を確認するまでは、本当に生まれたのかわかりません。ミドリの袋を上げて中を見れば答えは出るのですが、それが原因で子が死んでしまつては何もなりません。生まれていれば6ヶ月後には袋から出てくるだろうと気長に待つ方を選びました。その後、発情兆候もなく12月中頃には歩く時に袋のふくらみが目立つようになってきました。



袋が少し開いています

でも、子供の姿を見るまでは心配です。「本当に袋に入ってるんかいな。」と話していると1月22日の朝、袋から足が出ているではありませんか。交尾日から180日目のことでした。1週間後には顔をのぞかせたものの視力はまだないようです。鼻をツンと押すと指のにおいをかいで、あわてて袋の中に入り込んでしまいました。

袋から手や頭だけ出して寝ている姿は、実にかわいくもあり不気味なものでした。

パップを食べ始めたのは191日目でした。パップとはコアラにとって離乳食であり、唯一の食料であるユーカリを消化するのに大切な働きをする腸内細菌を母親から譲り受けるためのものです。それは何かということその正体は、お母さんのウンチなのです。

通常のウンチはビーナッツ位の形と大きさでコロコロしています。しかし、子供が袋から上半身を出し、総排出腔のあたりをなめると初めはコロコロのウンチが出てきますが、徐々にペースト状のものに変わってきます。パップは離乳食としての役目だけではなく、においや味がそのコアラにと

ってのユーカリの好みに大きな影響を与えるといわれています。600種類もあるユーカリのうち10種類程度しか食べようとしないコアラの好み、一体いつどうして決められるのか、今後の観察研究の必要がありそうです。

体が大きくならないと袋に戻りかける機会が少なくなり3月9日以降は袋に入っていない。かつてはコモリグマといわれた様に子を背中にのせて歩くイメージが強いのですが、4月末になつても腹部にぶらさがると背中に乗っての移動が同じ位の回数です。



お腹にしがみつくん

ある日、上の写真のようにミドリが歩きまわっているのを見て「子供がかわいそう。あんなに必死にしがみついているのに、あんなに歩きまわるとなると母親という意識がないのかしら。」という人がいました。私は思わず頭を抱えてしまいました。

動物の体の構造は実に巧妙にできています。例えばコアラが木にしがみついている時、よく観察すると人間が垂直な木につかまる時のように全身に力を入れていないのがわかると思います。同じように子供が母親のお腹にしがみつくと力が必要としません。何かの拍子に足が離れて手だけでぶらさがっても平気な位です。

動物の行動をすぐ自分達の行動とオーバーラップさせ人間本位な解釈をされてはコアラも立つ瀬がないというものです。

動物達の子育てというのは何度見ても頭が下がります。3月13日に初めて子がユーカリを食べるのを確認しました。正確には食べようとしているのをとすべきでしょう。初めての経験なので口に入れるのが精一杯です。もちろん手で枝をつかむことすら知らないし、口をモグモグするだけです。

親と同じように枝を手で引き寄せて食べるまで1ヶ月近くかかりました。その間、毎日少しずつ上手になっていくのが観察されました。でも「ミドリ」は何ひとつ教えようとしませんでした。人であれば、「ハイこれを食べなさい。枝はこうして持つんですよ。よく噛んでね。」と1から10まで親が教えるのですが。

私はまだ自分の子供を育てたことがありませんから何とも言えませんが、動物達の子育てを見てみると、人と動物の子育てや教育に大きな違いがあるような気がします。(飼育課：早川 篤)



「こんにちは、ボクはコアラの赤ちゃんです。名前はまだありません。みなさん、よろしくをお願いします。」(285日齢)



「アーア、また眠くなってきたよう。」(285日齢)



もう、お母さんの背中に乗って移動します。「お母さんの背中って、気持ちいいなあ。」(280日齢)



ずいぶん大きくなりました。お母さんのお腹にぶらさがって枝から枝へ移動します。「楽ちん/楽ちん/」(240日齢)

グラフZOO

コアラ誕生

昨年の7月26日、コアラの赤ちゃんが誕生しました。オスの赤ちゃんで、今では体長30cmぐらいになり、やんちゃぶりを発揮しています。今月の6、7ページ「コアラの子育て」もあわせてごらん下さい。(撮影：野口秀高)



袋がだいぶふくらんできて、母親の「ミドリ」は歩きにくくなってきました。「ボクはまだ袋の中です。」(150日齢)



やっと顔を袋から出しました。「外の世界は明るいなあ/」(187日齢)



「ちょっと外へ出てみようかな。でもやっぱりこわいなあ」(198日齢)



「さあ、お母さんの袋へ入ろう。おしりを見せてごめんなさい。」(198日齢)

動物 なんでも 相談室

☆ウンチを食べる動物がいると
聞きましたが、本当でしょうか？

(芦屋市:益田 友佳)



本当です。ウサギの仲間は自分のウンチを食べます。でも、いつも食べるわけではなく、食用のウンチと食べないウンチをします。この食用のウンチは普段のコロコロしたものではなく、少し軟らかいものです。まだ十分消化されていなくて、もう一度食べることによって栄養を十分に吸収することができるのです。

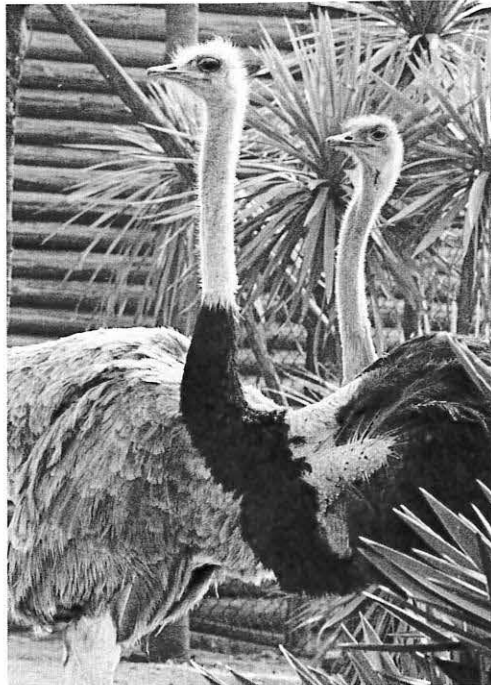
ウンチを食べるといって大変不潔なように思われがちですが、実際は、少ない栄養資源を最大限に利用する生活の知恵なのです。

また、コアラの赤ちゃんもお母さんのウンチを食べます。ただ、これは赤ちゃんが離乳する時に限ります。この場合もお母さんが普段するコロコロのウンチを食べるのではなく、やはり軟便状のものを食べます。コアラの赤ちゃんは、このウンチを食べることによって、お母さんが食べているユーカリの味と香りを覚えるのです。正にお袋の味ですね。

(飼育課:長瀬 健二郎)

☆ダチョウは世界で一番大きな鳥
だせうですが、やはり一番大き
な卵を産むのですか？

(芦屋市・森迫 宏央子)



ダチョウは世界最大の鳥です。体重は100kgを越え、背の高さも2mを越えます。ですからその卵も鳥類中最大で、その重さは1.5kg位もあり、長径(長い方の長さ)は17cm、短径(短い方の長さ)は14cm位もあります。また、殻の厚さは2mmもあり、人が乗った位では割れません。ちなみにニワトリの卵の殻は厚さ0.4mm程ですから、ダチョウの卵がいかに厚いかお分かりいただけると思います。

しかし、数百年前までマダガスカル島にはエピオルニスという鳥がいました。この鳥は背の高さが3m以上あり、体重は400kgだったと言いますから、ダチョウもビックリ、の大きさです。この鳥の卵は現在も残っていて、現地の人が水筒代わりに使っているそうです。これは長径33cm、短径24cmもあり、重さも9kgあるといえますから驚きます。この卵の殻の厚さは4mmもあるそうです。

では逆に問題です。ダチョウの卵から目玉焼は何人前作れるのでしょうか？(答は下にあります。)

(飼育課:長瀬 健二郎)

○ダチョウの卵は、1つにつき、約100個の目玉焼を作ることができます。

4月1日 “コアラの赤ちゃんキャンペーン”
として昨年7月26日に生まれたコアラの
赤ちゃんの名前募集が始まりました。募
集期間は4月30日までで、当選者100名
にはコアラのぬいぐるみを
贈ります。名前を募集する
コアラは、平成2年4月25
日にオーストラリアのメル
ボルン動物園から贈られて
きた、ハク(オス)とミドリ
(メス)との間に生まれた
当園初のコアラの赤ちゃん
です。今年2月から、母親
のお腹の袋から出て可愛ら
しい姿を見せてくれるよう
になっています。



- 4/3. ベニジュケイがキジ舎で今年始めて産卵しました。
- 4/5. セスジクスクスが、はじめて母親の袋から出ました。
- 4/9. タンチョウが産卵しました。
- 4/10. キーウィ4羽の体重測定をしました。
- 4/12. 傷ついたアオバト1羽を保護しました。

4月13日 大けがしたアナグマを1頭保護しました。頭の皮膚が直径8cmにわたり裂け化膿していたため、すぐ手術をしました。また全身の皮膚には無数のダニが寄生し



ていたため、ピンセットで取り、ダニを殺す薬をつけました。アナグマの保護は、当園では昭和51から62年までは1頭だけしかありませんでしたが、一昨年、昨年は1頭ずつ保護しています。

- 4/14. ジャガーが交尾しました。
- 4月16日 アムールトラが2頭生まれましたが、母親が面倒をみないため体温が下がっていたので、加温して一命をとりとめました。



オス、メス2頭で、メスは元気ですが、オスはあまり元気がなく人工乳をほとんど飲みませんでした。

- 4/17. 昨日生れたアムールトラの赤ちゃんのオ

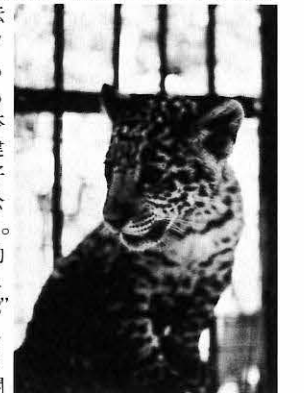
今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY

スは死亡しましたが、メスの赤ちゃんは
元気で人工乳を飲んでます。

4月17日 ジャガーの赤ちゃんの一般公開をヒ
ョウ舎横で始めました。この日で生後77
日となり、伝

染病の予防ワクチン注射も
終了し離乳も
ほぼ終了、体
重も4.6kgと健
康状態も良好
なので一般公
開となりました。



4月19日 “春の動
物と花のフェ
スティバル'92”
が始まりまし
た。これは5
月5日まで開

催され、主な催しものは、日曜、祝日に
野外ステージで、飼育係員がその担当動
物を魅力的に紹介する「こんにちは、ど
うぶつくん」や動物クイズが、レクチャ
ールームでは動物映画の会や親子手作り
動物教室などを行いました。また、園内
では無料動物相談を行いました。



- 4/20. 今年初めてのニホンザルの赤ちゃんが1頭生まれました。
- 4/22. コサンケイが3羽自然ふ化しました。
- 4/25. ダマシカの角が落ちました。
- 4/29. “鳥の楽園(バードケージ)”でカナダガンが4卵産卵しているのを確認しました。

☆テレホンサービス: 771-9999

☆お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
“今年生まれた赤ちゃん”
日時: 6月21日(日)、午後1時~2時
場所: レクチャールーム
- サマースクール生徒募集
期間: 6月1日(月)~6月30日(火)

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価600円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしと いかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしと いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究家)
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。



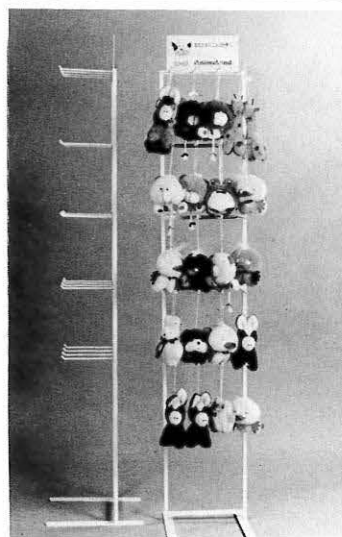
コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

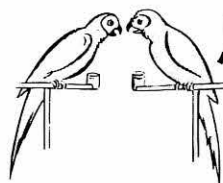


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

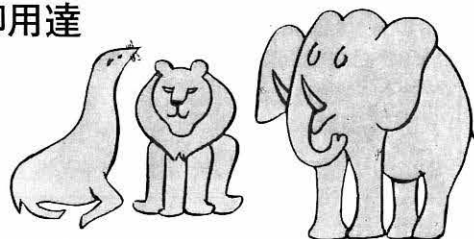
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

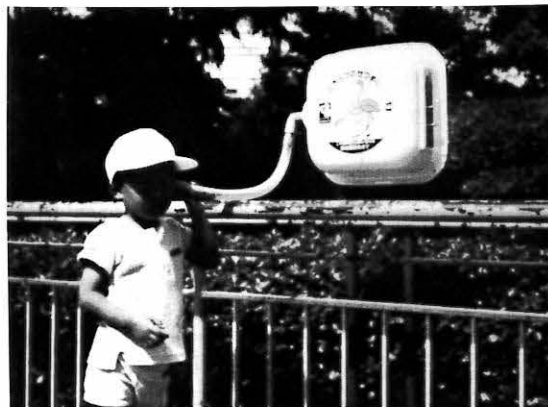


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話 (078) 221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

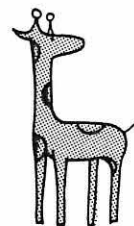
中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



しほりたてミルクのおいさが、生きている。

雪印
ヨーグル

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快に
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1992年6月10日発行(毎月10日発行)第28号 第6号 (通巻322号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所
発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
振替口座 大阪 3-3 7823

編集委員

(中山良三郎/村上昭/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/大谷直樹/宮下 実/長瀬健二郎/柳原安昭)
(森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/大川光雄/土谷正道/山元貞幸)